

品川区の教育改革プラン 21

小中一貫教育において  
人間教育をめざす新教科

# 市民科

自らの在り方や生き方を自覚し、生きる筋道を見付ける

～ 人 生 観 の 構 築 ～

品川区では、将来にわたり教養豊かで品格のある人間形成を目指し、児童・生徒一人一人が自らの在り方や生き方を自覚し、生きる筋道を見付けながら自らの人生観を構築する基礎となる資質を育て、能力を身に付けさせる「市民科」を創設した。

市民科では、児童・生徒に自己のゆるぎない信念と理想をもたせるとともに、社会の一員として義務と責任を果たし、常に自己変革を図りながら、自らの生き方に意味付けを行うことのできる資質・能力を身に付けさせることをねらいとしている。この目的を実現するために必要な内容を自己管理、人間関係形成、自治的活動、文化創造、将来設計の 5 領域とし、学年段階に系統性・関連性をもたせ、実効性のある教育を展開する。

## 「市民科」導入の背景 ～なぜ市民科が必要なのか～

最近の子どもたちの傾向をみると、将来についての夢をもてないだけでなく、子どもの規範意識や社会的マナー、公共心が低下しているとする指摘が極めて多い。このような状況の原因を突き詰めて考えてみると、子どもの人格形成に正面から向き合ってきたなかった教師も含めた私たち大人の問題が浮かび上がってくる。そして、学校は、目の前の子どもの姿を正しく捉え、「望ましい生き方」の自覚や、「自分自身の生きる道筋を発見するための教養」の習得など、社会との関係における「我」を捉えさせてきたであろうか。

このような考え方から、本区では「市民」を広く社会の形成者という意味で捉え、社会の一員としての役割を遂行できる資質・能力とともに、確固たる自分を持ち、自らを社会的に有意な存在（社会の中の個）として意識しながら生きていける「市民性」を育てる学習を小中一貫教育において創設した。

## 道徳、特別活動、総合的な学習の時間を「市民科」として統合

本来、特別活動（学級活動）の基礎基本は、議論のルールやディベートの技術など、議論に関する知識やテクニックを教えることである。また、道徳の時間では、善悪の判断基準を徹底的に教え、社会のルールを身に付けさせることである。しかしながら、教育現場の実態は、子どもの自主性という言葉に任せ、活動ありきで確実にこれからの社会を「生きぬく力」を身に付けるまでは至っていない。本区では、社会の中の個として、人間がどう生きるべきかという視点から、めざす方向性が同じである道徳、特別活動、総合的な学習の時間をねらいや活動を段階的・系統的に統合させたカリキュラムを作成した。



市民科の教科書

1・2年用 3・4年用 5～7年用  
8・9年用 ※H23改訂

# 市民科の構成

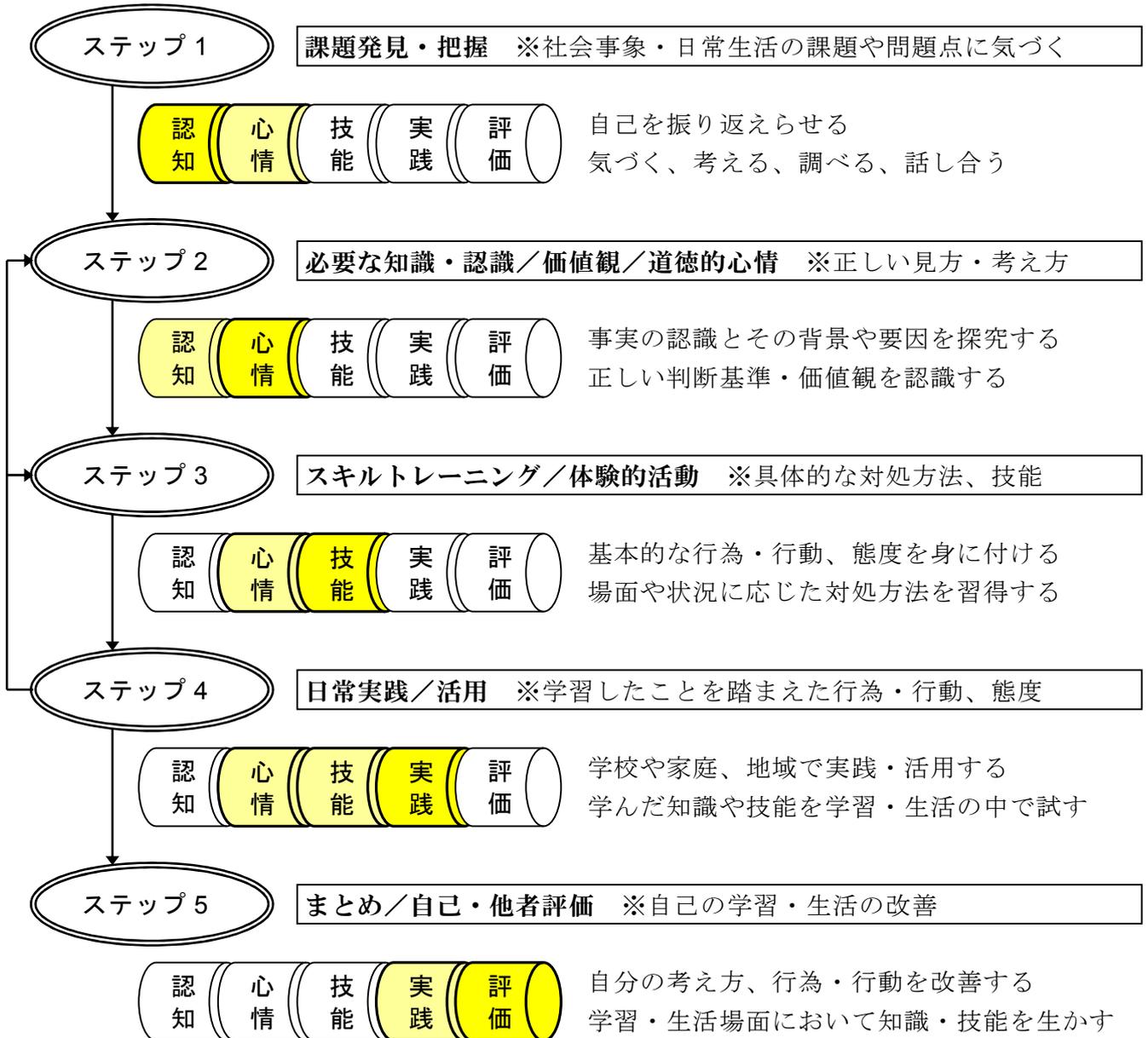
- 市民科
  - 市民科学習（教科書を活用した学習：標準授業時数内）
  - 児童会・生徒会活動
  - クラブ活動（小学校のみ）
  - 学校行事（儀式的、文化的、健康安全・体育的、遠足・旅行・集団宿泊的、勤労生産・奉仕的行事）

標準授業時数

※（ ）は、学校プランとして設定できる時数

学 年	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	5 年 生	6 年 生	7 年 生	8 年 生	9 年 生
時 数	85	85	85 (10)	85 (10)	105 (20)	105 (20)	120 (20)	105 (20)	105 (20)

## 市民科学習の授業展開 ※教科書の全単元は〈ステップ1～5〉で構成しています。



# 市民科学習 各学年段階における指導のねらい

## 第 1 学年～第 4 学年

自己の内面を鍛えることからはじめ、自己と学校生活上の集団とのかかわりについて学習していく。学校や学級生活を通して生活適応や集団適応などについて学び、基本的な生活習慣や社会性の基礎を確実に習得させること。また、セルフ・コントロールや対人関係能力の基礎を身に付けさせ、自己と集団、自己と地域社会などのかかわりについて理解を深めるとともに、よりよい生活を築こうとする技能を習得させること。

そのため、特に主体性・積極性・適応性と自己管理領域・人間関係形成領域の各能力に重点を置く。

## 第 5 学年～第 7 学年

自己と集団・社会をつなぐために自治的活動の原理・原則を教え、社会的行動力の基礎を育成する。家庭や社会における自己の役割を理解させ、進んで集団や社会に貢献しようとするなど、社会的な行動力の基礎を身につけさせる。また、学校や地域社会などにおける生活上の問題を見つけ、個人や集団・組織で問題解決を行うなど実践的な態度を形成する。

そのため、特に適応性・公德性・論理性と自治的活動領域・文化創造領域の各能力に重点を置く。

## 第 8 学年・第 9 学年

社会の一員として、様々な出来事に関心をもたせ、問題解決に向けた思考力や判断力を高めさせるとともに、職業体験やボランティアなどの活動を通して、積極的に社会に参画することの意義を理解させる。また、将来の自己の生き方について展望をもたせ、個性を生かして自己実現に向けた望ましい職業観・勤労観を育成する。

そのため、特に実行性や創造性と将来設計領域の各能力に重点を置く。

## 市民科学習－将来設計領域－独自のキャリア教育プログラム

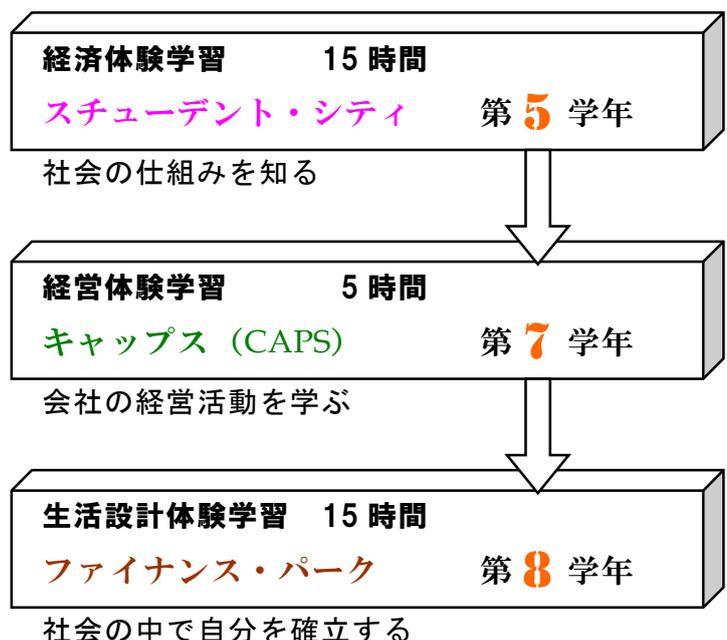
対象：品川区の当該学年の全児童・生徒



**スチューデント・シティ** 児童は職業体験を通して、経済や社会のしくみを理解する



**ファイナンス・パーク** 生徒は生活コストを考えながら将来の人生設計の方法を学ぶ



意思決定力に必要な資質を育て、能力を身に付けさせる

# 市民科の指導において育てる「資質」と身に付けさせる「能力」について

## 7つの資質

**主体性・積極性・適応性・公德性・論理性・実行性・創造性**

## 5領域・15の能力

	領 域	身に付けさせる能力
個の自立に関すること	<b>自己管理領域</b> 基本的な生活習慣や社会的マナーを身に付け、個と環境との調和的関係を構築しながら、自らの義務と責任を果たすことなど、自主・自律に基づく生活行動管理をする資質と能力を伸ばす。	<b>自己管理能力</b> 基本的な生活習慣・行動様式を身に付け、自らの目標達成に向けて、自立的な判断と責任ある行動を行うために、自分の生活・行動管理ができる能力
		<b>生活適応能力</b> 様々な環境や状況、条件において、正しい情報を収集・選択し、適切に活用しながら柔軟に対応するとともに、日々の生活改善を図ることができる能力
		<b>責任遂行能力</b> 日常・学校生活の課題を解決するために、自分で役割や仕事を選び、最後までやり遂げるとともに、結果に対しても責任をもち自己改善を図ることができる能力
個と集団・社会の関係をつなぐこと	<b>人間関係形成領域</b> 自己理解を深め、他者の多様な個性を尊重し、他者や集団の中で相互の信頼関係を築き、自己の個性を發揮しながら、様々な人々とよりよい人間関係を構築し、共存・共生を実現する資質と能力を伸ばす。	<b>集団適応能力</b> 学校や学級、地域社会などにおける多様な集団や組織に主体的にかかわり、その中で自己の立場を理解し、よさを發揮することができる能力
		<b>自己理解能力</b> 自己を正しく理解するとともに他者の多様な個性を尊重し、互いに認め合ったり高め合ったりしながら共によりよい生活ができる能力
		<b>コミュニケーション能力</b> 様々な場面や状況のもと、自分の考えや判断を効果的に相手に伝えたり、相手の考えを理解したりしながら望ましい人間関係を築くことができる能力
個と集団・社会の関係をつなぐこと	<b>自治的活動領域</b> 社会的集団や組織において、社会規範に基づき、自己の意思と責任で自治的活動に参加し、目標に向けた自己の果たす役割など、民主的なコミュニティを形成する資質と能力を伸ばす。	<b>自治的活動能力</b> 自分が所属する集団や組織などにおいて、責任と義務を果たすとともに自分の意志を集団に反映させ、自治的な活動を推進することができる能力
		<b>道徳実践能力</b> 社会の一員としての自覚と規範意識を高め、日常生活で直面する様々な場面や状況において、道徳性に基づく行動ができる能力
		<b>社会的判断・行動能力</b> 現代社会で起きている様々な情勢や課題などに対して、正しい判断に基づく自分の考えをもち、必要に応じて社会的な行動ができる能力
社会にかかわること	<b>文化創造領域</b> 伝統文化に対して興味・関心をもち、文化的行事に進んでかかわりながら自分なりの構想や表現方法を身に付けるとともに、先人の生き方などから人生観を高め、普遍的な文化価値を継承・発展させる資質と能力を伸ばす。	<b>文化活動能力</b> 学校や地域、我が国並びに諸外国の伝統・文化についての理解を深めるとともに、積極的な参加を通して、豊かな教養をはぐくむことができる能力
		<b>企画・表現能力</b> 様々な行事や活動などにおいて、協同的な企画・立案、運営に取り組むとともに、自分の思いや願いを適切かつ効果的に表現することができる能力
		<b>自己修養能力</b> 自分自身の在り方や生き方の意義や価値について考え、先人の人生観などを学びながら、常に自己の精神を鍛えていくことができる能力
	<b>将来設計領域</b> 現代社会における経済や金融の仕組みについて認識を深め、自己が果たすべき役割を自覚するとともに将来の生き方や職業などについての目標を立て、自らの人生を設計できる資質と能力を伸ばす。	<b>社会的役割遂行能力</b> よりよい社会の実現のために、自分の果たすべき役割を正しく認識し、相互協力のもとで進んで社会貢献に取り組むことができる能力
		<b>社会認識能力</b> 望ましい職業観や経済・金融の仕組みと社会とのかかわりについて、体験などを通して理解するとともに、自分の将来設計に生かすことができる能力
		<b>将来志向能力</b> 自己実現に向けた将来への希望や目標をもち、自らの意思と責任による選択・決定を行い、これからの進路計画や人生設計を立てることができる能力